

# 平成27年度和歌山県文化功労賞

おおじ かずこ いながき かずこ  
大路 和子（本名 稲垣 和子）

住 所 大阪府堺市  
出 身 地 和歌山県田辺市  
生 年 昭和10年

## ◎ 業績及び経歴

昭和10年田辺市に生まれる。慶應義塾大学文学部英文科（通信教育部）を卒業。40歳を過ぎてから上京し、予備校の講師をしながら文章修業に励む。瀬戸内寂聴氏に師事。

昭和54年「波濤への旅」で第5回日本旅行紀行賞佳作に入選。昭和57年には「補陀落山へ」で第6回歴史文学賞佳作に入選する。

昭和59年に「清姫物語」を出版。出版記念パーティーには、瀬戸内寂聴氏をはじめ、多くの作家仲間もかけつけて、氏の門出を祝った。

以降、歴史小説家として数々の作品を発表。「徳川吉宗をめぐる女たち」など、ふるさと紀州の人物を取り上げたものも多い。

平成11年には、「補陀落山へ」をはじめ、「黒い波濤」「鳥葬の村」「熊野無情」「鶯の宿」「和佐大八郎の妻」「那智大滝捨身」の7篇を収録した短編集を出版。これは紀州熊野を舞台にした人間の愛憎を活写する秀作集である。

歴史を彩ってきた紀州の人物の中でも、特に陸奥宗光に着目。陸奥は、江戸末期の紀州藩で政敵によって失脚し、田辺に幽閉させられた伊達宗広の六男であり、田辺出身の氏は、この点に大いに興味をそそられた。平成18年に出版された「相思空しく 陸奥宗光の妻亮子」は、陸奥が妻亮子に贈った漢詩に氏が注目して描いた、深い愛情で結ばれた夫婦の物語であり、陸奥の活躍を陰で支えた妻亮子を描いた渾身の長編小説である。国内外での丹念な取材を通して、激動の時代を生き抜いた日本人の姿を浮かび上がらせた。

氏は紀州に対して並々ならぬ愛着を持っており、様々な角度から作品を描いてきた。長年にわたる紀州を題材とした多くの作品を通して、本県の文化振興に寄与された功績は誠に多大である。

■ 現 在  
作家

## ◆ 主な表彰歴等

昭和54年 第5回日本旅行紀行賞佳作  
昭和57年 第6回歴史文学賞佳作